

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

大変な時代、大変革の時代を生きる智慧「ゼロ・プラス・ワン（0+1）」をモットーに、

学び続け、変わり続けることの出来る生徒を育てる、世界でいちばん「変（チェンジング）」な学校をめざします！

本校は、「ゼロ・プラス・ワン（0+1）」を合言葉に、前例にとらわれず「ゼロベース」で自分の頭で考え、失敗を恐れず、失敗してもくじけず、失敗から学んで何度でも立ち上がり、勇気をもって前を向いて一步を踏み出すことのできる生徒を育てたい、育ててほしい、と願っています。また、生きる力のすべての源泉は、「言葉のチカラ（言語技術）」にあると確信しています。

① 「知的好奇心のかたまり」 ② 「ゼロベース思考」 ③ 「失敗を恐れないチャレンジャー」 ④ 「人が好き！自分も大好き！」

こんな生徒を育てたい、こんな生徒に育ててほしいと願い、学び続け、変わり続ける全教職員が全力でクリエイティブにサポートします！

2 中期的目標

1. 【授業革命】で「ジェネリック・スキル（汎用的能力）」を育成！〈基礎学力の定着と向上〉〈自己肯定感の向上〉〈進路実現〉

(1) 全教職員が【授業革命】の旗手となり、そのキーワードとなる「アクティブラーニング」を積極的に実践して「教師力」「授業力」を磨くとともに、生徒の主体的・能動的な学ぶ姿勢を引き出すことで「ジェネリック・スキル（汎用的能力）」を育成し、「自己肯定感」を高め、「進路実現」を強力にサポートする。

ア 「電通総研アクティブ・ラーニングこんなのだらう研究所」と連携して、生徒が主役の新しいアクティブラーニング型授業「探究（変な授業）」を開発実践し、ジェネリック・スキル（問題発見&解決力、論理的批判的思考力、情報編集力、コミュニケーション能力、表現力など）を磨く。

イ 若手を中心とする教科横断的メンバー「プロジェクトチーム・ゼロ・プラス・ワン」によるICT機器を活用した、教職員間の意識改革などを通じて、生徒一人ひとりが主体的・能動的に学習できる教授法・学習法にシフトチェンジしていく。教師のファシリテーションスキルを磨き、授業を最強化し、金岡高校を臨場感あふれワクワクする魅力的な学習空間となるよう仕掛けていく。

※全教職員がアクティブラーニングにチャレンジする（チャレンジ率100%目標）。

※全教職員が他の教員の授業を相互に見学して、意見や情報を交換し、お互いに切磋琢磨して授業の質を高める（授業見学率100%目標）。

※生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすい」をH28≧80%、「授業参加度」H28≧80%とする。

ウ 通常授業の冒頭で、その授業のプラス・ワン＝「授業のタイトル（めあて）」を明示し、網羅的ではなく内容を厳選して「めあて」を柱とした授業の展開を行う。また、その対として授業の最後に「まとめ」を行い、生徒が授業のピフオー・アフターで「1時間前の自分と違う自分がここにいる！」「きのうと違う自分に出会えた！」と思えるようなプラス・ワンを、全教員が常に提供する。

※授業の「タイトル（めあて）」明示率H28≧100%をめざす。

エ 授業の質を高めることで学力の向上を図る。

※学力生活実態調査の学力指標GTZ（H26.9月：S1～S3=0%、A1～A3=0.6%、B1～3=24.6%、C1～3=56.5%、D1～3=18.3%）で、国公立難関大学を狙える

AゾーンをH28=3%に。中堅校を狙えるBゾーンをH28=50%に。DゾーンをH28≦10%に。

※学力不足による留年・中退率（H27=0.18%）を限りなくゼロに近づけ、年度末の進級率・卒業率を100%とし、維持継続する。

※本校が進学実績の指標と位置付ける難関校（国公立・関関同立）、私立中堅校の合格者を、H29には各10人超、100人超とする。（H27=5人、63人）

※卒業時アンケートの学校満足度（計画初年度H26=87.6%）を、平成28年度は100%にする。

エ H26年度の「ICTを活用した先進的な学習環境プラン支援校事業」（学校間でインターネット双方向ライブ配信システムの構築と、リアルタイムでインタラクティブな授業交換ができる環境を実験的に整え、学校相互の交換授業や他校の指導教諭によるサテライト授業を実施。また、これにより、学校間で切磋琢磨して、授業力の改善と最強化を図り、生徒に還元する）の推進。

※参加生徒の満足度（H26=100%）、H27、H28も100%を継続。教職員の授業改善に対する肯定率（H26=55.4%）を、H27=80%、H28=100%に。

※現役大学進学率H25=45.7%を（計画初年度H26=45.2%）、H27=55%、H28=65%に。

※進路希望実現率（計画初年度H26=59.3%）を、H27、H28は前年比プラス10%以上。

(2) 生活習慣の確立と、一人ひとりの時間創造をサポートし、時間を有効に活用して「ゼロ・プラス・ワン」（挑戦と創造）を習慣化する

ア 規則正しい生活リズムを作る調査を実施し、啓発・支援活動を通じて、人生の限られた時間を取り戻す。

※自宅学習時間平均1時間以上

※総遅刻者数2,500以下

(3) 「0+1（ゼロ・プラス・ワン）」を実現する【骨太の日本語力養成プロジェクト】～生きる力の源泉「言葉のチカラ（言語技術）」を徹底マスター

ア H28年度「学校経営推進費」を活用し、語彙力増強を意図し、図書室を学習支援型のラーニングコモンズとして、各種の情報や仕掛けを間断なく提供していく。

※ラーニングコモンズの利用者数、H28≧30人とする。

※全国高等学校ビブリオバトル（H27:2大会連続出場）、中高生ビブリオバトル大阪大会（H27:初出場）→毎年連続出場更新をめざす。

※ビブリオバトル校内大会を、H28=学期間2回開催→H29=隔月開催→H30:月1回の月例開催をめざす。

イ 日々のすべての授業や活動で、言語技術のマスター、コミュニケーション能力のトレーニングなどジェネリック・スキルのブラッシュアップを意識する。

※言語技術を意識した授業において、基本となる発語、発音、発話を丁寧に指導する。学校でしか聞くことのできない単調で抑揚のない「棒読みの音読や発表」をなくし、聞く人を意識したコミュニケーションの基本を徹底指導する。

※知的書評合戦ビブリオバトルの指導体制強化など各種の仕掛けで語彙力やCSの増強を図る。

エ ソーシャルスキル（傾聴力、アンガーマネジメントなどエモーショナルリテラシー）やメディアリテラシーの育成

※教員向けに各種研修を実施し（H26=研修参加率31%、H27=77%）、また生徒向けにも実施する。

2 「0+1（ゼロ・プラス・ワン）」（挑戦と創造）スピリッツを発揮できる環境の整備：安心安全！グローバルなカナオカン・スタイルの確立

(1) 安心安全な学園環境を整える

ア 教師による「～しなさい」「来なさい！」などや、「～させる」など使役の助動詞の文章の使用を見直し、心穏やかな学園空間を演出する。

イ 安全確保のために着手している学校エントランス周辺の大リニューアル完成をめざす。

※通学路での自転車事故ゼロをめざす。

(2) 教育相談体制、サポートの充実

ア S S W (スクール・ソーシャルワーカー) と S C (スクールカウンセラー) を活用して支援態勢をサポートする。

※本校独自に S S W を招聘し、定期的にケース会議を開催 (H27=8 回実施、教師の精神的負担軽減指数 80% 実現)。

イ 障がいのある生徒の自立と進路実現を目標に日常をサポートしていく。

※生徒向け独自調査による「障害のある生徒のために改善すべき点がある」(H27=37.1%) を、H28=30% 以下に

(3) 地域連携や、部活動・生徒会活動の活性化

ア 地域に支持される「グローバル・リーダーズ・ハイスクール」をめざす。

授業参観ウィークを設定すると同時に、通年で授業を公開する。

※授業参観ウィークの学校訪問者数 100 人。

※吹奏楽部、軽音楽部、ボランティア部、ハンドメイキング部、公認帰宅部ほか各クラブや、音楽科、家庭科などの授業でも、地域や保護者、周辺施設と協働して交流を深めると同時に、生徒にさまざまに活躍できる場を提供する。

イ 生徒の自主性を尊重し、「生徒が主役」の生徒会、学校行事、HR 活動、委員会活動、部活動をサポートする。

※現存する部活と生徒の希望する部活がマッチしているか調査を実施し、ギャップがあれば適宜見直して、クラブ加入活動率 100% をめざす。

ウ 学校説明会や中学校訪問なども生徒主体にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 ほとんどの項目において昨年度より肯定的回答が上回っている。「授業が分かりやすい」が、肯定値 69.1% と、昨年度より 7.4% 上昇しているが、限りなく 100% に近づけていく取組が必要である。</p> <p>【生徒指導等】 ほとんどの項目において昨年度より肯定的回答が上回っている。その中で「生徒が交通マナーを守っている」が生徒自身の評価で肯定値約 60% とマナーの悪さを感じている様子が見える。今後交通マナーを向上させていく取組をさらに充実させていく必要がある。</p> <p>【学校運営】 「学校生活に満足している」生徒肯定値が 3 年連続 80% 超、「金岡高校は良い学校だと思う」保護者肯定値が 3 年連続 90% 超と、それ以前の肯定値が、生徒 70% 保護者 80% と比較すると、非常に高い評価を得られるようになってきている。今後もこれに甘んずることなく、積極的な学校運営をしていく。</p> <p>【その他】 記述部分において、総合的な学習の時間について現在の取組の継続を望む声が複数寄せられた。期待に沿えるよう内容を充実させて継続していく必要がある。</p>	<p>第 1 回 (7/14) ○新しい事をいろいろ取り組まれているようで、学校も活気が出ている。この調子で頑張っていたきたい。 ○「探 Q (変な授業)」生徒が熱心に取り組んでいた。 今後も頑張って続けてほしい。 ○昨年度はあまり使用されていなかった教室のプロジェクターが使用されるようになっていた。 府から設置されている AED に加えてもう一台設置を後援会に検討していただいてはどうか。</p> <p>第 2 回 (12/8) ○さまざまな取り組みを通して生徒たちは貴重な体験をしている。今後も取組を続けてほしい。</p> <p>第 3 回 (3/17) ○センター受験が多くなっていることは好ましいことである。一方で平均点が全国平均を下回っている。講習だけでなく授業での基礎学力向上を図ってほしい。 ○体制が来年度以降変わるが、今取り組まれている路線を引き続いて継続して、より良い内容にしてほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習 & 生活習慣の確立と基礎学力の定着、進路実現	<p>(1) 授業力を改善&最強化し、基礎学力の定着を支援 ア プロジェクトチームによる授業改善を推進 イ 全授業の冒頭でタイトル(めあて)を明示 ウ 生徒のデータの一元化とトータルな学習支援プランの作成と実践 エ インターネット双方向ライブ配信システムを構築してリアルタイムでインタラクティブなサテライト授業の実施</p> <p>(2) 生活習慣の確立と、一人ひとりの時間創造をサポート</p> <p>(3) 学力&生きる力の源泉「言葉のチカラ(言語技術)」を徹底マスター「骨太の日本語力養成プロジェクト」</p>	<p>(1) ア・全教員がICTを活用した実験授業に挑戦。 ・全教員が他の実験授業を観察、助言しあい、成果検証を行い、改善点について全教員で情報を共有する(9~1月)。 ・第1回の授業アンケート(7月)で課題を把握し、第2回(12月)での改善を推進、次年度計画に活かす。 イ・全授業の冒頭で、その授業のプラス・ワン＝「タイトル(めあて)」を明示する。 ウ・きめ細やかな3年育成トータルプランを描いて、進路実現をサポートしていく。 エ・他校指導教諭によるサテライト講習の実施 ・パートナー校との双方向授業の定期実施 ・本校教諭による小中学校へのインターネット出前授業配信実施 ・本事業でのトライアルと成果を府立学校全体で共有できるよう基礎データと情報を蓄積・発信。 ・1年後には私立高校や大学、海外とも連携し、授業交換を行う(週1回程度)。</p> <p>(2) ア・生活実態調査を実施し、時間管理術を指導。遅刻に関しては定期的な遅刻指導等を実施。</p> <p>(3) ア・読書実態調査を実施し、高校生の全国平均(月1.7冊)と比較し、読書を促す戦略を練る。 ・各教科ごとに「高校時代に、絶対これだけは読んでおきたい5冊」を選定し、図書室に並べると同時にネットで公表。各授業にも援用して、教科ごとの読書率を競う。 ・学習支援型図書室ラーニング・コモンズ創設運用利用者がほとんどいない学校のデッドスペースとなっている本校図書室を、生徒の主体的な学びのスペース「学習支援型図書室ラーニングコモンズ」として蘇らせる。当企画は平成28年度学校経営推進費の支援が決定しており、第3次大阪府子ども読書活動推進計画ともリンクさせてこのプロジェクトを実現・推進するために、教科横断的なプロジェクトチームを発足させ、また外部専門家にも協力を仰ぎ、府立高校における新しい図書室のあり方と可能性を探る。 イ・日々の授業で、コミュニケーション能力のトレーニングを意識して実施 ウ・ソーシャルスキル(傾聴力ピアリスニング、アンガーマネジメントほかエモーショナル・リテラシー等)やファシリテーションスキル向上などを目的とした各種の研修を教員向けに実施。</p>	<p>(1) ア・「授業でICTを活用している」H28=100%に ・全教員の実験授業挑戦H28≥70%をめざす。(H27=55.4%) ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」を、H28≥80%をめざす。(H27=61.7%) ・学校教育自己診断ICT関連項目の満足度、H28≥90%をめざす。(H27=86.0%) ・学校教育自己診断「授業の工夫満足度」H28=100%を目標とする。(H27=83.3%) ・「授業参加度」≥80%をめざす。(H27=74.3%) ・2回目の授業アンケート結果における生徒の授業満足度H28≥90%以上をめざす。(H27=83.3%) ・「授業互見率」=100%(←全員)(H27=73.6%) イ・授業の冒頭時タイトル明示率、H28≥100%目標。(H27=81.8%) ウ・教育産業の学力生活実態調査における数値について、「平日の自宅学習時間」が平均30分未満の学習者50%(H27=48.4%)、「ほぼ毎日、自宅学習する」35%(H27=18.6%)、「学習や進路実現に向けての不安や悩み」50%に。(H27=69.5%) ・学力生活実態調査の学力指標G T Z (H26.9月:S1~S3=0%, A1~A3=0.6%, B1~3=24.6%, C1~3=56.5, D1~3=18.3%)で、国公立難関大学を狙えるAゾーンをH28=3%に。中堅校を狙えるBゾーンをH28=50%に。DゾーンをH28≤10%に。 ・学力不足による留年、中退者H27=0.18%を限りなく0%に ・難関校(国公立・関関同立5人)と私立中堅校の合格者63人を、H28=13人、100人とする。</p> <p>エ・教職員の授業改善に対する肯定率の向上 H28=100%をめざす。 ・現役大学進学率(H27=46.7%)、H28=55%、H29=60%をめざす。 ・進路希望実現率 H27=51.1%を、H28=75%に</p> <p>(2) ア・携帯・スマホの使用時間、H28≤2hを目標とする。(H27=2h56m) イ・総遅刻者数、H28≤2,500、H29≤2,000に(H27=3325名)</p> <p>(3) ア・図書室利用者数、H28≥30人を目標とする。(H27=18.8人) ・高校生全国平均一カ月1.7冊を上回る目標について、H28=5冊以上を目標とする。(H27=3.5冊) ・図書館を1学期中に空間の設計、夏休みから2学期にかけて空間づくり施工~竣工、秋に運用開始。全国高等学校ビブリオバトル(3年連続)、中高生ビブリオバトル大阪大会(2年連続)出場と校内大会の学期間2回開催。 イ・生徒向けの学校教育自己診断の授業参加度は、H28=90%以上を目標とする。(H27=74.7%) ウ・独自アンケートで調査する「自己肯定感」を、世界でもっとも低い日本の高校生の平均45.8%を上回る70%に(H27=62.9%) ・教員向け研修、年≥3回実施(H27=4回)</p>	<p>(1) ・ICT活用87.2%(○) ・78.3%(◎) ・授業はわかりやすい69.1%昨年度より向上した(△) ・生徒ICT満足度83.6%(△) ・授業工夫83.6%(△) ・授業参加77.2%(○) ・授業満足度82.8%(参考 授業アンケート生徒の意識3.06) ・86.7%(○) イ・90.0%(○) ウ・「平日の自宅学習時間」が平均30分未満の学習者54.1%、「ほぼ毎日、自宅学習する」14.2%、「学習や進路実現に向けての不安や悩み」71.4%(△) ・G T Z H28.9月A0.9% B31.5% C46.3% D21.2%(△) ・学力不足の留年0名、中退者0名(◎) ・難関校13名、中堅校79名(○) エ・96.7%(○) ・50.9%(○) ・56.1%(△)</p> <p>(2) ア・3H30M(△) イ・総遅刻数2,428名(◎)</p> <p>(3) ア・15.4人(△) ・3.2冊(△) ・竣工遅れのため本格的な運用は3学期後半 全国高等学校ビブリオバトル(3年連続)、中高生ビブリオバトル大阪大会(2年連続)出場 校内大会年6回実施(○) イ・79.4%昨年度より改善がみられる(○) ウ・46.6%(△) ・教員研修年4回(○)</p>

府立金岡高等学校

<p>2 安心安全でグローバルな学校づくりと環境整備</p>	<p>(1) 安全安心な学園環境を整える ア 教師による上から目線を避け、心穏やかな学園空間を演出 イ 通学路など学園内外での安心安全の確保 (2) 教育相談体制、サポートの充実 ア SSWのケース会議で教育相談支援 イ 障がいのある生徒の自立・学習支援 (3) 地域に支持される「グローバル・リーダーズ・ハイスクール」 ア 地域や保護者の皆さんの学校参加 イ 生徒が主役の学校づくり</p>	<p>(1) ア・「金高スマイル・プロジェクト」を編成し、よそさまの大切な子供を預かっているのだという意識の醸成と穏やかな学園空間づくりを心がける。 ・「命令形のアナウンス・ゼロ運動」を実施。 「きょうも学校に来てくれてありがとう！」というウェルカム精神で気持ちよく生徒を迎えて一日をスタートする。 イ・地域やPTA、周辺の小中学校とも連携して、通学の安全を確保する活動を展開し、小さな改善を積み上げていく。 (2) ア・SSW中心のケース会議を毎月開催して学級運営や学習支援をバックアップする。 イ・障がいのある生徒の自立と進路実現を目標に、環境を整備し、日常をサポートしていく。 (3) ア・通学の安全確保や各種イベントなど日々の教育活動への地域や保護者の皆さんの積極的な参加を促し、協力事業参加を仰ぐ。 ・授業参観ウィークを設定(11月) イ・「生徒が主役」の生徒会執行部、HR活動、委員会活動、部活動、行事をめざすべく、教師の意識改革を促す。教師はあくまで黒子で、陰のサポート役に徹する。</p>	<p>(1) ア・総括ほか校内文書から使役の助動詞「～させる」など使役の表現を極力排する。(文書1ページに1箇所以下)については、継続してゼロを維持する。 ・H28=ゼロをめざす。(H27=0) イ・自転車通学の事故ゼロ・正門前道路の北側に信号機の設置については、H27以降、環境整備の訴えかけをあわせて、改めてゼロをめざす。(H27=事故総数32件) (2) ア・SSWケース会議を月1で開催。独自調査による教師の精神的負担軽減指数100%をめざす。(H27=100%) イ・生徒向け独自調査による「障がいのある生徒のために(設備や環境等について)改善すべき点がある」について、環境改善を図り、H28\leq5%をめざす。(H27=37.1%) (3) ア・後期入学者選抜志願倍率を、府立高校(全日制普通科)の平均以上をめざす。(H27=1.05) ・授業参観ウィークについては、創意工夫を凝らしてH28\geq100人超をめざす。(H27=10人) イ・クラブ加入目標、H28\geq95%。(H27=93.3%) ・文化祭・体育祭など各種行事後の生徒向けアンケート結果における満足度 H28=100%目標。(H27=100%)</p>	<p>(1) ア・0を達成(◎) イ・事故総数41件(1年34件2年6件3年1件)(△)信号の設置については実現できなかったが、その代わりとして横断歩道を実現した。 (2) ・SSWは年6回来校ケース会議はほぼ毎月実施 精神的負担軽減100%(◎) ・49.5%(△) 現実的に校内に段差が多いためと考えられる。 (3) ア・1.13(○) ・授業参観ウィークは実施せず、随時見学可能とした。12人外部の授業見学を含めると、のべ60名程度の授業見学があった。(△) イ・帰宅部を除く加入者53.2%(27年度56.7%)(△) ・満足度100%(◎)</p>
------------------------------------	--	--	---	--